

ISOM Japan NEWS Letter

第 18 回国際東洋医学会学術大会開催さる



沖縄コンベンションセンター

HP : www.icom-okinawa2016.com/

場所 : 沖縄県宜野湾市 〒 901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜 4-3-1

第 18 回国際東洋医学会学術大会の報告

第 18 回国際東洋医学会学術大会 会頭 大野修嗣

第 18 回国際東洋医学会学術大会 (The 18th International Congress of Oriental Medicine; ICOM) が国際東洋医学会 (International Society of Oriental Medicine; ISOM) の日本支部の主管のもと “Integration of Traditional and Modern Medicine” と冠して 2016 年 4 月 15 日 (金) から 17 日 (日) にかけて沖縄コンベンションセンターにて開催された。日本支部が主管となったのは第 4 回の ICOM が皮切りであり、このときは会頭を坂口弘先生にお引き受けいただき京都で開催した。今回の第 18 回 ICOM はわが国での開催の 5 度目にあたる。

実行委員長を友利寛文先生 (那覇市立病院外科部長) に、事務局長を牧野利明先生 (名古屋市立大学教授) にご尽力いただいた。また ISOM の日本支部長の重責を担われている安井廣迪先生は韓国、台湾、ドイツと東奔西走され、第 18 回 ICOM を成功に導いていただいたことは特筆に値する。さらに国際東洋



医学会日本支部にご尽力いただいている多くの先生方によって成功裡に終わることができたことに会頭として心より感謝申し上げる次第である。

今回の ICOM の参加者は日本、韓国、台湾、中国、ヨーロッパ、米国、オーストラリア、ロシアから基礎研究者および臨床に従事する医師、薬剤師、鍼灸師ほか総勢 587 名に昇ったことを報告する。

ISOM は 2 年もしくは 3 年に 1 回、学術大会 (ICOM) を開催している。近年、この学術大会の開催国は、韓国、台湾、日本の順で開催されているが、過去にはアメリカ合衆国、スイスなどで開催された経緯もある。今回の第 18 回 ICOM は前述のごとくわが国の支部が主管となり、日本東洋医学会、和漢医薬学会、日本生薬学会、全日本鍼灸学会の後援を得て、また東洋医学に係わる多くの薬業界、製薬メーカー、医療機器メーカーの協力の下に開催された。東洋医学を担うわが国の総力を挙げての開催の形が形成された学術大会であった。

学会の幕開けとシンポジウム

初日の午後から新企画の日独シンポジウム (Joint Symposium for Acupuncture and Kampo Medicine between Japan and Germany) で学会が始まった。ドイツから Dr. Klaus Hambrecht はじめ 5 名の先生方、またオーストリアから Dr. Bernd Kostner、スイスから Prof. Dr. med. Claudia Witt、スペインから Dr. Ulrich Eberhard が参加され、活発な討論で魅力あふれるシンポジウムとなった。



日独漢方鍼灸シンポジウムの一風景

その他、事務局長として本学会の正に中枢としてご尽力いただいた牧野利明先生と台湾の台北医科大学の王静瓊先生がコーディネートされた「処方の中での個々の生薬の役割」についてのシンポジウムで、両先生その他、韓国の Dong-eui Univ. Koria に所属される Soon Shik Shin 先生、中国の黒竜江中医薬大学の王喜軍先生らそれぞれ講演された薬学系シンポジウムが開かれた。また鍼灸学系のシンポジウムも充実し、各方面からの話題が提供された。

特別講演、招待講演、一般演題

特別講演として日本東洋医学会会長の佐藤弘会長に「日本東洋医学会の歴史と展望」と題するご講演いただいた。日本東洋医学会の会長が講演されたことで ISOM と日本東洋医学会との連携も次第に緊密になっていることは慶賀に堪えない。

招待講演として臨床医と基礎研究者の 4 人の先生方が招聘された。台湾の漢方界の重鎮であり、国際東洋医学会で長年に亘り中心的に貢献された顔焜熒先生には見事な日本語で「Prof. Yan's Kampo Medicine」の講演を頂き、聴衆一同は深い尊敬の念と感銘を抱いた。米国の Sloan-Kettering Cancer Center の Dr. Gary Deng の講演は統合医療の広い視点からのがん患者に対し漢方医学の有用性を話して頂いた。その他の招待講演として、韓国からの Dr. Lee Hyejung には「Challenges and opportunities in the advancement of Korean Medicine」と題する講演をいただき、日本の皮膚科の漢方界の牽引役である二宮文乃先生は「Health the Body by Treating Skin」と題する講演で多くの聴衆を魅了した。



特別講演の顔焜熒先生

教育講演として 10 演題が用意され、ドイツ、オーストリア、韓国、台湾、日本の先生方のレクチャーを聞

くことができ、漢方の習得の機会にも配慮されたプログラムであった。

一般演題はポスター発表の形をとり、多くのすぐれた研究が報告され、将来を嘱望される若手の優れた研究者が表証された。

レセプション

日独シンポジウムに引き続き開催されたウェルカムパーティー、中日でのガラパーティーでは沖縄伝統芸能を堪能しながら伝統的食事・酒に舌鼓を打った。会場に入りきれないほどの参加者が集い、参加者にはご不便をお掛けしたが、主催者側としては嬉しい悲鳴となった。伝統医学に傾注する各国の先生方の良き交流の場が提供できたと自負している。

ISOMの理事会

学会開催中に第30回のISOM理事会が恒例に従って開催された。伝統医学に尽力する各国の理事の方々を召集され、今後のISOMの発展と継続に対する真摯な討議の場となった。そもそもISOMは1975年に東洋医学全般を研究の対象とする学術団体として設立され、その翌年にソウルで第1回の学術大会（ICOM）が開かれた。それ以降、坂口弘先生、山田光胤先生、室賀昭三先生が会長の重責を担い、その他多くの錚々たる先人達の尽力により、40年という世界で最も長い歴史を有する東洋医学に関する国際学会に育てていただいた。そして現在のISOM会長は日本の中田敬吾先生（医療法人聖光園細野診療所所長、森ノ宮医療大学教授）であり、第14代会長として活躍されておられる。この学会はまた、日本、韓国、台湾の三カ国が主要理事国となり、事務局をソウルに置き、各国支部事務局と連携をとりながら活動を行っている。ISOMに加盟している国々の多くの有志と交流・連携する事によってわが国の東洋医学は世界に向かって更に発展する事ができるものと期待される。



第30回国際東洋医学会理事会

最後に

今回のテーマである“Integration of Traditional and Modern Medicine”は日本でしか為しえない企画である。西洋医が漢方薬を正式に処方できるのは日本だけである。自ずと日本の立ち位置の重要性が認識されるのではなかろうか。さらに会員の先生方のお力を借りて、ISOMの継続とまた日本漢方の世界に向けた発信と発展を願うばかりである。



大野先生



中田先生



キム先生（韓国）



黄先生（台湾）



ライセンウェーバー先生

第 18 回国際東洋医学会を終えて

実行委員長 友利寛文（那覇市立病院）

もう半年が経ちました。

去った 4 月 15 日から 17 日の 3 日間 沖縄で開催された第 18 回国際東洋医学会。

参加して下さった皆様。ご支援をいただいた皆様。またお手伝いいただいた多くの皆様に感謝いたします。

那覇市のとあるバーで安井先生から「来年沖縄で国際学会を宜野湾コンベンションセンターで開くので手伝って。何もしなくていいから」といわれ「わかりました」と軽い気持ちで答えたのが 2015 年 4 月のことです。

まさかこんな大役で伝統ある会議とはしらず断ればよかったと後悔したことが懐かしいくらいです。（実際事務局の牧野先生のおかげで何もしなかったのですが・・・。）

この沖縄の地に 日本全国・台湾・韓国・ドイツ・アメリカ・オーストラリアなど多くの皆様にご参集いただき大変有意義な会が開けた事を喜んでおります。

沖縄での開催を決めていただいた安井先生。会頭の犬野先生。理事長の中田先生をはじめ理事の先生方。事務局の牧野先生。名古屋市立薬学研究科の皆様。沖縄統合医療学院の皆様。コーポレートゲームズの皆様。実行委員の皆様。多くの皆様のおかげで無事に会を終えることができほっとしております。ありがとうございます。

残念なのは、予想以上の皆様にご参加いただいたため初日・2 日目のパーティーでは料理・飲み物が十分にいきわたらず皆様に満足のいくおもてなしができなかったことです。紙面を使ってお詫びいたします。

また天候が悪く沖縄の青い空と海をみていただけなかったことが残念でなりません。また機会がありましたら是非沖縄の地においでいただきたく思います。

この会に関わっていただいた多くの皆様。ありがとうございました。



2016 年 4 月 16 日のガラパーティーで行われたネーネーズのコンサート
はじめて聴く沖縄の音楽は、各国からの参加者を魅了した。

ISOM Japan ニュースレター 2016 No. 1
発行日 2016 年 10 月 5 日
編集者 ニュースレター編集委員会
発行者 安井廣迪
発行所 国際東洋医学会日本支部（ISOM Japan）

国際東洋医学会日本支部 ISOM Japan

名古屋市瑞穂区田辺通 3-1
名古屋市立大学薬学部生薬学分野内

TEL&FAX 052-836-3416

Email: icom-japan@phar.nagoya-cu.ac.jp

ウェブサイト <http://isomjpn.umin.jp/>